

学生が主体的に学ぶ授業の創造

教育実践総合センター・平松義樹

1. 授業の概要

本講座の目的は、最近の学校教育をめぐる諸問題、特に学力論や授業論について実践的に研究していくことにある。そして、教師としての使命感や実践的指導力を培うとともに、人間としての生き方について自ら考える力を育てることをねらいとしている。

2. アンケート結果

本講座では、毎時間、授業感想カードに以下のような観点で授業評価をしている。

今年度の結果は、下記のとおりである。

5(とてもよい)・・・1(よくない)

[教師の説明の仕方]

5 (95%) 4 (5%) 3 (0%) 2 (0%) 1 (0%)

[内容や教材の工夫]

5 (100%) 4 (0%) 3 (0%) 2 (0%) 1 (0%)

[構成や展開の工夫]

5 (95%) 4 (5%) 3 (0%) 2 (0%) 1 (0%)

[知識・概念の獲得]

5 (90%) 4 (5%) 3 (5%) 2 (0%) 1 (0%)

[授業の充実満足度]

5 (90%) 4 (10%) 3 (0%) 2 (0%) 1 (0%)

[授業への取り組み方]

5 (85%) 4 (10%) 3 (5%) 2 (0%) 1 (0%)

3. 総括

今年度の傾向として、教師や講座への満足度は高かったものの、学生自身の自己評価はやや低かった。私語もなく居眠りもなく教員からみると受講態度はよかったのであるが、学生はやや控えめに自己評価したようである。

授業時間外に自ら課題を設定し、探究型の自主学習をさせ、その成果をプレゼンでまとめさせたが、これは学生の自己学習能力の向上につながった。プレゼンの内容・程度ともに高かった。

4. 学生の授業感想

○ 先生の教師人生を聞くことができ良かったです。自分の人生を熱く語ることが

できる教師に私もなりたいです。お話を通して、先生の人柄が伝わってきました。先生のような方に子どもの頃、教わりたかったと心からそう思います。今日の授業は、今まで受けた授業の中で、最も刺激を受け、感じるものが多い授業でした。こんな授業を受けたくて工学部から教育学部に移ってきたんだと思います。4月から小学校の先生になる上で、最近、不安を多く感じます。しかし、早く子ども達に会いたい、いろいろなことを子ども達としていきたい、そう思い直すことができました。ありがとうございました。

○ 今日は先生の教育観や経験を交えた話を中心だった。先生の印象は、みんなも言っていたように、活発で何事にも興味をもっている、そんな少年であると感じていた。しかし、小学校のいじめの話、大学受験の話など、なんだか胸がいっぱいになるような気持ちをもちました。私も愛媛大学に入学した際に、先生と同じことを考えました。大学の名前を隠したいとまで思っていました。しかし、大学生生活も残り約1年。自分の興味のあること、挑戦したいことには全力で取り組み、必ず残りの学生生活を豊かにし、小学校教員を目指します。貴重なお話をありがとうございました。

○ 平松先生の講義は、心にささるものばかりだと思いました。今、私自身が何となく勉強して何となく時間が過ぎていって・・・という毎日でした。しかし、今日、たくさんの言葉を聞いて、「あせらず、あなどらず、あきらめず」コツコツ勉強して、子どもを一番に思って行動できる教師になりたいと思います。自分が子ども達のために動くことが、思うことが、教員に欠くことのできないものだと思います。自分の心に戻すことができました。

ありがとうございました。

- 平松先生のご講義にはいつも熱いものを感じます。今日は、特に、何と表現したらいいかわかりませんが、心ふるわされる感じでした。私も一回生のときには県外の大学へ行った友人が羨ましく、大学を変わることを考えていた時期がありました。しかし、愛大で授業を受け、多くの先生、友人、先輩と出会う中で、大切なのは「何を学ぶか」であることを感じ始めました。学ぶことがここには本当にたくさんあります。それに、地元だからこそ、愛媛のことをもっと知れるし、愛媛ならではの紀要財を探す体験をすることもできます。地域連携実習の受け入れもあります。今は愛大にしてよかったと強く思います。あと1年ほど、全力で学んでいきます。
- 先生のお話を聞いていて、自分自身のこれまでの人生と重なる部分があるなと思いました。僕は小中学校時代、いじめられた経験も、いじめた経験も、悪いことをして指導室に呼ばれた経験もあります。しかし、あることがきっかけで、頑張っ て宇和島東高校に入学し、テニス部のみんなと高め合っていました。しかし、大学受験では、皆は阪大、京大に受かったのに、自分だけ大学に落ち浪人してしまいました。その後は、まったく勉強せず、1年を過ごしてしまいました。大学に入ってから、もっといい大学に入っておくんだと後悔しました。しかし、今考えてみると、それが僕の人生でした。今日お話をうかがった「あせらず、あなどらず、あきらめず」にいたら、どんな夢でも叶うように思います。先生のお話は、いつも切実感にあふれ、「教職」というのは素晴らしい職業なんだと思わせてくれます。僕も自分にチャレンジします。
- 私は先生の数々の素晴らしい実践や教育への、児童生徒への思いを聞きながら、感銘を受けました。それとともに、自分は平松先生と同じぐらい熱意をもって取り組めるのだろうかという思いになりました。私は人に対して弱い面を見せるこ

とが苦手です。そんな私にある人がこんなことを言ってくれました。「〇〇、教師を目指すんやったら、喜怒哀楽を表現できるようにになりなさい。そうしたら、子どもも〇〇に対して自分の気持ちを素直に表現してくれる」。その言葉を思い出しました。そうなれるよう努力していきたいです。貴重なお話をありがとうございました。

- 私は、いつもこの授業に出るたびに、平松先生を見て、とてもまぶしく思っています。私自身が良くできた人間でない、また、表面ばかり取り繕っていても、内面は利己的な人間だと自分自身思うことがあるため、余計にそのように感じるのかも知れません。人間性を磨くためにはどのようにしたらよいか。私にはまだ具体的なことは分かりませんが、磨いていこうという意志はあります。これから、どこに出ても全力で取り組んでいこうと強く思った授業でした。

## 5. 教員の授業感想

大学における授業の質を高めることを目指してここ10年間努力してきたつもりである。教育内容としての教材研究、教育方法としての指導法研究、教育評価としての授業評価研究が主たるものであるが、ここ数年は大学における授業の質の基準についてどのように考えたよいか迷い始めている。アンケートにもあるように、私の授業において、学生は私語もケータイも居眠りもしないで熱心に聴講しているが、それは一斉教授学習の伝達型の授業タイプの様子である。しかし、自ら課題発見探究タイプの授業の方が、教師になってからの力を育成できるのではないかと考え、3年前から、講座以外の時間でも、自らの課題を探究して学ぶようにしてきた。成果はプレゼンの形でまとめ、最終講座のときに発表会をしている。学生の中には、かなり書物を紐解き、講座以外の時間を「学びの時間」に変換できる学生も増えてきた。今後もこのスタイルを踏襲しつつ、学生が自ら学ぶ講座の工夫を進めたいと考えている。